

## 第3回 あきる野市総合計画審議会 議事録

日 時：令和元年10月29日（火） 午後1時30分～3時30分

場 所：あきる野市役所別館 3階 第一会議室

出席者：会長 菊地 俊夫 副会長 横倉 三郎  
委員 田野倉 美保 委員 大久保 春彦  
委員 坂本 勇 委員 影山 守彦  
委員 齋藤 孝 委員 松村 博文  
委員 立花 晋也 委員 倉田 克治  
委員 伊東 満子 委員 野島 健也  
委員 吉田 榮久夫 委員 櫛 敏男  
委員 多田 恵子 委員 近藤 怜美  
委員 青木 旦治 委員 吉田 正幸

（欠席者：甲野富和委員、網代和夫委員、安永勝昭委員、町田修二委員、下村智委員、松野利美委員）

### 1 開会

（事務局）

台風15号、19号により大きな被害が発生し、市としては緊急災害対策本部を設置して対応に当たっているため、防災服着用での参加についてご理解いただきたい。

また、10月6日に行われた市長選挙の結果、村木新市長が誕生した。本来であれば本審議会に出席して委員の皆様にご挨拶を申し上げる所であるが、公務のため出席することが出来ないため、「くれぐれも宜しくお伝えください」との伝言を預かっているので、ご報告させていただく。

本日の会議については、甲野委員、網代委員、安永委員、町田委員、下村委員、松野委員から欠席の連絡をいただいている。

### 2 会長挨拶

（会長）

雨天の中、お集まりいただき、感謝申し上げます。台風による被害があったものの、徐々に復旧へ向かっていると伺い、安心した。

また本日の回は、終了時刻が夕刻にかかると参加が難しい委員もいらっしゃるということを踏まえ、過去2回よりも早い時間帯からの開始となっているのでご理解いただきたい。概ね午後3時半には終了とさせていただきたいので、円滑で有意義な会議になるようご協力をお願いしたい。

### 3 議事等

#### （1）あきる野市民ワークショップ開催結果の概要について

【事務局から、資料1を用いて、あきる野市民ワークショップ開催結果の概要を説明した。】

(委員)

何かご意見はあるか。

(委員)

職員ワークショップについて、参加者数を教えていただきたい。また、市内在住の割合を教えてください。

(事務局)

64名が参加し、市外在住の職員も参加していたが割合は把握していない。

(委員)

台風19号により、秋川が氾濫したが、本審議会において災害対策を優先して取り上げるべきではないか。河川流域には流木が散在している。

(事務局)

将来都市像を検討いただく過程において、防災についても当然ご議論いただくことはあると思われる。河川整備・河川管理等の具体的な取り組みは基本計画の部分で議論いただくのがよいと思われる。

(委員)

周辺地域では、災害時以外の流木対策も大きな課題となっており、各地域で対策を考えている。本来的には山の管理を適切に行うことが求められる。所有者が何とかできればよいが、従事者の減少、高齢化や費用面のことも聞き、その対応に難しさがあると思われる。

(委員)

5ページの結果が今日の議論のベースになるということでよいか。

(事務局)

ご認識の通りである。

(委員)

将来像に関する意見について、確認はあるか。

(委員)

観光協会で管理しているバーベキュー場も河川氾濫で大きな被害を受けたが、関係各位との協議が必要なのですぐに復旧することは難しい。

(委員)

財政基盤の確保は大きな課題であるが、どのキーワードに関わってくるのか。

(事務局)

財政基盤は前提条件と捉えているため、直接的にはキーワードの中には含まれていない。当然確保すべきものという位置づけである。

(委員)

「このまちは災害に強い」というイメージを持っており、本格的な対策をしていなかった方もいたのではないかと感じた。しかし今後はまちづくりの方針の中にも何かしら対策を盛り込むべきではないかと感じた。

(委員)

流木の話が出ていたが、昭和 30 年頃から、国策で全国の広葉樹を針葉樹に植え替えてきた背景がある。材木価格が下落しており、赤字で出荷できないという現状であるが、木にはおいしい空気を作る利点もある。山の管理に対して取り組んでおり、河川や沢の周辺にある樹木も間引きを行うなど、流れ出さないように対応している。また、市では予算に力を入れていただいている。多くの木を使えば山も元気になるので、その点も含めてご議論いただければと思う。

## (2) あきる野市総合計画基本構想（たたき台）について

【事務局から、資料 2 と 3 を用いて、あきる野市総合計画基本構想（たたき台）を説明した。】

(委員)

何かご意見はあるか。特に資料 3 の第 2 部、基本構想について確認をいただきたい。

(委員)

将来都市像の候補 4 に「のどやかなまち」とあるが、これはどういう意味か。

(事務局)

のどかと同義である。

(委員)

聞きなれた表現の方がよいので「のどか」としてはどうか。

(事務局)

ご意見として承った。

(委員)

まちづくりの方向性は示されているが、市面積の 3 分の 2 が山岳地帯であることも踏まえ、防災の視点を強く打ち出した方がよいのではないか。また、秋川の水質を調査すると、野生動物の排泄物由来の大腸菌の影響が出ており、山が緩衝地帯になっていないことも理解しておいた方がよい。

(委員)

ワークショップのキーワードの中で「伝承・歴史」というものが出ているが、将来都市像の候補の中には盛り込まれていないように思う。

(事務局)

将来都市像の案については、審議会での議論において、要素を強く盛り込むべきであるということであれば直していきたい。

(委員)

各分野を横串に通すような将来都市像として、地域共同、共助等を踏まえた方がよいのではないか。あるいは全世代型という視点を持つとよいのではないか。例えば職住近接が実現すれば、子育てや高齢者福祉にも当然波及すると思われる。各種市民参加に基づいて検討することは望ましいが、当事者が意識していない潜在的なニーズ等も捉えて検討することが重要である。

(委員)

「市民一人ひとりが生涯を通じて健康で」とあるが、国の政策として共生社会の推進、平均寿命と健康寿命の差を縮小する方向性を打ち出している。本市においても同様の姿勢を示すことが重要ではないか。元気な高齢者づくりというキーワードもあってよいのではないか。

(事務局)

ご意見を踏まえ、加筆させていただく。

(委員)

市民ワークショップを傍聴させていただき、防災についてはほとんど出てこなかったが、台風19号の発生を踏まえると、また感じ方も違ったのではないかと思う。やはり防災の視点を入れるべきであると感じる。

(事務局)

防災を生活環境分野の1施策とするのか、あるいは防災に特化した分野として独立させるのかといったことは今後の論点として前向きに検討したい。

(事務局)

本日欠席の委員よりご意見を5つ預かっているので紹介したい。第1に、全体の構成案をわかりやすく示した方がよい。第2に、都市計画マスタープラン等との整合に引き続き留意すべきである。第3に、将来都市像は市の政策目標になるとするならば、市の考え方を示すべきではないか。この点については、例えば防災という視点を盛り込むため、市として将来都市像候補に「安全・安心」をあえて組み込んでいる。第4に、市民憲章と総合計画の関係性を明確にするべきではないか。この市民憲章は現行計画の策定を見据えて制定されたという背景を踏まえて、理念に代わって盛り込んでいる。第5に、序論が記載されているが、各種調査結果を羅列するのではなく、最終的には総括した結果のみを掲載した方がよいのではないか。

(委員)

市民憲章の4番目に「歴史」というキーワードが盛り込まれているが、萩原タケ氏に代表される、優れた人物が紡いできた歴史であるという視点を踏まえ、「人物」というキーワードを盛り込んでどうか。あきる野市をもう少し有名にしたいと思っている。

(委員)

将来都市像についてはどうか。入れ込むべき要素や考え方についてのご意見でも構わない。

(委員)

将来都市像は今後市をPRする際に活用するのか。将来都市像の案の内容自体はまんべんなくあきる野市の特徴を盛り込んでいるとは思いますが、発信力という観点では弱いのではないか。住みたいまちランキングを見ると、かなり下位であり、市のイメージが発信されていないのではないか。インパクトのあるキャッチフレーズがよいのではないか。「木と水と一緒に住める街」のようにイメージしやすいフレーズが望ましい。

(委員)

同じ意見である。パッと見て、あるいは聞いてわかりやすい、短い文の方がよいのではないか。

(委員)

将来都市像の案は、ぼんやりしすぎている印象を受ける。スローガンの方がよいのではないか。まちの課題がどこにあり、それに対してどのように解消するのかという流れの方がよいのではないか。また、インバウンド活用からの経済活性化という視点も盛り込むべきではないか。

(委員)

提示された候補を踏まえて、「豊かな自然と人々の絆に包まれた安全・安心なまち あきる野」というフレーズを考えてみた。豊かな自然はワークショップの結果等からもあきる野市の宝と捉えることができ、SDGsに掲げられている「誰一人取り残さない」を実現するためには人との絆が重要と考えた。「安全・安心」には防犯、防災、保健医療という要素を含んでいる。「人々の絆」については「市民の」や「地域の」としてもよいかもしれない。

まちづくりの方向性について、あきる野市への流入を増やすのであれば、子育てについて独立した分野として打ち出した方がよいのではないかと。子育て分野自体、質・量的にも多岐にわたるので、力が入れやすいと思われる。

(委員)

明石市では「SDGs 未来安心都市」と打ち出しているので、キャッチフレーズと説明文を独立させるべきではないか。

(委員)

いずれの候補もあきる野市の現状を示しているにすぎないといった印象を受ける。旧秋川市では「スポーツ都市宣言」、旧五日市町では「清浄都市宣言」と打ち出したように、将来に対する目標を示すべきではないか。

(委員)

「安心・安全」とあるが、例えばひとり親による子育てについて、子どもの受け入れ先が見つからないという現実もあることも踏まえた方がよいのではないかと。

(委員)

将来都市像について、皆さんのご意見を踏まえて、ひとまず正副会長に一任という形で案を作成するが、審議会としては引き続き検討を進めることとする。

(事務局)

市民ワークショップの結果を捉えると、人口減少対策や公共交通の充実が重点的に挙げられており、今回の案のキーワード出しに結びついている。また、各種ワークショップ開催時、将来都市像の方向性についてご意見を伺ったところ、キャッチフレーズのように具体的なものがよいという意見が多かった。本日の議論も踏まえて、事務局としても検討したい。

## 4 その他

### (1) 次期総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略との統合について

【事務局から、資料4を用いて、次期総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略との統合について説明した。】

(委員)

何かご意見はあるか。特にないようなので今後の予定について説明をいただきたい。

### (2) 今後の予定について

【事務局から、今後の予定について説明した。】

(委員)

何かご意見はあるか。なければ最後にその他について説明をいただきたい。

### **(3) その他について**

(事務局)

第2回審議会の議事録案を配布している。加筆修正等につき、11月5日までにご意見をお寄せいただきたい。

(委員)

私の名前の漢字を修正いただきたい。

(事務局)

大変失礼した、修正させていただく。

(委員)

まちづくりの方向性については次回検討するということか。

(事務局)

ご認識の通りである。最後に副会長より総括をいただきたい。

## **5 閉会**

(副会長)

活発な議論であったと思う。次回も引き続きよろしくお願ひしたい。以上をもって、第3回あきる野市総合計画審議会を終了させていただく。